

全国の教会・伝道所の女性会の皆さま
教会に集う皆さま

2025 年 12 月 15 日

日本バプテスト女性連合
6・23「沖縄（命どう宝）の日」推進委員会

「祈り便」第 69 信（12 月～3 月）のご案内

沖縄に住むことがゆるされ 24 年。辺野古の新基地建設を止める座り込みに時々参加させてもらっています。けれども、2021 年暮れに具体的に米軍から「台湾有事」という言葉を聞いて周りを見てみると、なんと琉球弧の島々への自衛隊基地、弾薬庫、ミサイル基地建設があれよあれよという間に進んでしまっています。

座り込みで掲げられている「ミサイルよりもおむすびを」「戦争準備より平和外交を」というプラカードを見るにつけ庶民の思いが凝縮した言葉だと思わされます。80 年前の戦争では「戦争反対」と口にできなかった。国策に従わざるを得なかった。しかし、今は違います。「戦争はペテンだ！！」と声高に唱えたスメドリー・D・バトラーさんを通して、「抑止力」が戦力増強を促し、人が血を流し、殺し合う終わりのなき戦いへと誘導することを知りました。

私たち日本は、80 年前にアジアを侵略し戦争で多くの方がたの命を奪いました。沖縄からもたくさんの兵士が中国に派遣されました。沖縄から派遣された兵士の甥にあたる方が、「どうしても現地へ出かけ、中国の方がたに対し謝罪し、共に平和の道を歩みたい」と中国へ平和の旅を行っておられます。昨年も沖縄から「重慶（南京に並ぶ中国大都市の一つ）への旅」を企画し、春には『重慶大爆撃』被害者・家族を迎えて」が企画されました。

重慶大爆撃の犠牲となられた方がたの遺族と沖縄戦の生き残りの方がたが手を握り合う場面もありました。重慶の方がたが沖縄自衛隊基地に行き、中国に向かっている銃口を見て、「私たちに向けないで」という訴えも。共に平和をめざす仲間たちと熱い握手をかわしました。

日中の政府間では進まない外交ですが、私たち一人ひとりが平和を目指して対話に踏み出していくとき、平和の道が拓かれていくと信じます。

「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」（マタイ 5・9）

岡田富美子（おかだ ふみこ）
6・23「沖縄（命どう宝）の日」推進委員、那覇新都心教会協力牧師
※『世の光』2025.12 月号より

「祈り便」第 69 信をお送りします。沖縄の方がたとともに心合わせて祈りましょう。